

科目ナンバリング：DIS-I-351-05

国際学部：「卒業認定・学位授与方針」で謳う「基礎知識」を身につける為の科目

■授業の目的及び到達目標

選択科目なので高校で地理を習っていない大学生が少なくない。そこで、この授業では高校の地理に関する具体的なイメージを養ってもらおう。同時に中学生や高校生に世界地理を教える上で、必要不可欠な基礎学力を身につけてもらう。暗記科目というイメージが強いが、地図帳と白地図の有効性を実感してもらうことが第一の目標である。

■授業計画

- 1 **ケッペンの気候区分①ー熱帯・乾燥帯ー**
熱帯と乾燥帯の風土について概観し、世界の都市の気温と降水量に関するデータから、その都市がどの気候区に属するかを判読する方法を学ぶ。また、そのデータに風や地形などの因子が与える影響を考慮しつつ、地図上でその都市の位置を確認する。
- 2 **ケッペンの気候区分②ー温帯・冷帯・その他ー**
温帯と冷帯の風土について概観し、世界の都市の気温と降水量に関するデータから、その都市がどの気候区に属するかを判読する方法を学ぶ。また、そのデータに風や地形などの因子が与える影響を考慮しつつ、地図上でその都市の位置を確認する。
- 3 **小学生「地理」の復習ー日本の気候とその応用ー**
地形的要因は気候の変化に大きな影響を及ぼすが、その影響に関する知識はほぼ小学生レベルである。このことを再確認すると同時に、「身近な地域」の分析を重視する日本の地理教育の伝統についての理解を深める。
- 4 **世界の風土①ーヨーロッパー**
ヨーロッパの都市の気温と降水量に関するデータから、その都市がどの気候区に属するかを判読し、地図上で位置を確認する。その後、ヨーロッパの地形について概観し、アルプス以北と以南の農業の違いや伝統的な工業地帯の立地について学ぶ。
- 5 **世界の風土②ー北アメリカー**
北アメリカの都市の気温と降水量に関するデータから、その都市がどの気候区に属するかを判読し、地図上で位置を確認する。その後、北アメリカの地形について概観し、アメリカの農業地帯の立地や伝統的な工業地帯の形成について学ぶ。
- 6 **世界の風土③ーオーストラリアー**
オーストラリアの都市の気温と降水量に関するデータから、その都市がどの気候区に属するかを判読し、地図上で位置を確認する。その後、オーストラリアの地形について概観し、乾燥地域に見られる農業・牧畜業や地下資源の分布などについて学ぶ。
- 7 **世界の風土④ー南アメリカー**
南アメリカの都市の気温と降水量に関するデータから、その都市がどの気候区に属するかを判読し、地図上で位置を確認する。その後、南アメリカの地形について概観し、ブラジルやアルゼンチンの農業や地下資源の分布などについて学ぶ。
- 8 **世界の風土⑤ーアフリカ<-/>**
アフリカの都市の気温と降水量に関するデータから、その都市がどの気候区に属するかを判読し、地図上で位置を確認する。その後、アフリカの地形について概観し、北アフリカの乾燥地帯に見られる伝統的農業や地下資源の分布について学ぶ。
- 9 **世界の風土⑥ーユーラシアー**
ヨーロッパとアジアの都市の気温と降水量に関するデータから、その都市がどの気候区に属するかを判読し、地図上で位置を確認する。その後、ヨーロッパとアジアの地形について概観し、ユーラシアの風土の多様性について学ぶ。
- 10 **アジアの風土①ー西アジア・中央アジアー**
西アジア・中央アジアの都市の気温と降水量に関するデータから、その都市がどの気候区に属するかを判読し、地図上で位置を確認する。その後、西アジア・中央アジアの地形について概観し、乾燥地帯における伝統的農業や地下資源の分布について学ぶ。
- 11 **アジアの風土②ー南アジアー**
南アジアの都市の気温と降水量に関するデータから、その都市がどの気候区に属するかを判読し、地図上で位置を確認する。その後、南アジアの地形について概観し、モンスーンと地形が生み出す多様な地域性や地下資源の分布について学ぶ。
- 12 **アジアの風土③ー東南アジアー**
東南アジアの都市の気温と降水量に関するデータから、その都市がどの気候区に属するかを判読し、地図上で位置を確認する。その後、東南アジアの地形について概観し、伝統的な農業や帝国主義時代におけるモノカルチャー経済の形成について学ぶ。
- 13 **アジアの風土④ー東アジアー**
中国の都市の気温と降水量に関するデータから、その都市がどの気候区に属するかを判読し、地図上で位置を確認する。その後、中国の地形について概観し、各地域における農業の特徴と地下資源の分布について学ぶ。
- 14 **アジアの風土⑤ーアジアの中の日本ー**
朝鮮半島と日本を中心とする地域の都市の気温と降水量に関するデータから、その都市がどの気候区に属するかを判読し、地図上で位置を確認する。その後、この地域の地形について概観し、日本がモンスーン・アジアであることを確認する。
- 15 **アジアの風土⑥ー日本ー**
日本の都市の気温と降水量に関するデータから、その都市が日本のどの地域に属するかを判読し、地図上で位置を確認する。その後、日本の地形について概観し、それぞれの地域における風土の多様性について学ぶ。

■授業の方法

ケッペンの気候区分を手掛かりとして、世界の風土を理解する。毎回、各地の気温と降水量のデータから気候区を割り出し、その位置を地図上で確認する作業を行います。気温と降水量のデータから世界のどの地域か分かるようにする。

■予習・復習

自主性を重視し、予習も復習も特には求めない。しかし、特に中学校に教育実習に行こうとする学生には、自らの不勉強が学ぶ権利の侵害に当たるという自覚を求める。

■成績評価の方法（成績の評定方法、授業態度、レポート等の扱い）

平常点(60点)と定期試験(40点)の総合評価とする。平常点は小テスト形式(10点×6回)で採点し、各回の小テストのテーマ・範囲は授業中に指示するものとする。学期末試験の内容は、後期授業の小テストと課題となるので、受講生には自覚を求める。

■教科書・参考書

毎回、帝国書院『新詳高等地図』を使用する。ただし、高校の授業で使用するものであれば、他社製のものでも可とする。

■関連する科目

地理、人文地理Ⅱ、自然地理Ⅰ・Ⅱ、地誌Ⅰ・Ⅱ